

アピール

文部科学省の「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議」は、五月二十七日、第一次報告案をまとめた。報告案は、国民の意見も採り入れ、「紙とデジタルのそれぞれの良さを適切に組み合わせる視点」を明確にし、デジタル教科書の良さだけを記していた三月の中間まとめから一定の軌道修正を図った。萩生田光一文部科学大臣もその後、「紙とデジタルの併用」に言及し、「紙や活字文化は大事」と語り、私たちの政策提案に理解を示された。

私たちは、紙かデジタルかの二者択一ではなく、紙を基本に、デジタルは補助教材として使うなど、バランスの取れた教育を提唱してきた。内外の調査では、紙で本を読むほうが、デジタルで読むよりも深く考え、読解力の得点が高いという結果もある。一方、タブレット端末は、迅速な情報収集や動画活用の効用がみられる。GIGAスクール構想の具現化にあたっては、それぞれの持ち味を組み合わせて、より良い学びの環境を整えなければならない。

これまでの教育論議では、「デジタル化推進」の政府の方針もあって、「先にデジタルあり」の意見が目立っている。今後はこれまで軽視されてきた学習効果や子どもの健康管理、読書教育、学校図書館活用型授業などソフト面の論議を深めなければならない。学校教育の重大な転換期に臨み、文部科学省は「百年の大計」に立つ教育政策の策定に向けて、国民的な論議を起こすことを、私たちは要望する。

二〇二一年六月二日

活字の学びを考える懇談会